

申請先：財団法人全国地域情報化推進協会 事務局

「PF通信(PF通信機能)製品 PF準拠確認チェックリスト

APPLIC 登録番号：  ★APPLICで記載

(1) 対象標準とバージョン

・プラットフォーム通信標準仕様V2.0 ・アーキテクチャ標準仕様V2.0

(2) PF準拠確認対象製品やシステムの情報と連絡先

(a) 申請日(西暦年月日)：

(b) 申請区分(新規、修正、破棄)：

(c) 申請者

団体名：  ★識別キー項目1

団体のURL：  (識別キー項目3つで  
ユニークになるように  
申請者が指定する)

APPLIC会員番号：

(d) 製品情報

製品説明のURL：  ★識別キー項目2

代表製品名：  
複数製品で構成する場合追記：  
複数製品で構成する場合追記：  
複数製品で構成する場合追記：

製品識別情報(バージョン等)：  ★識別キー項目3

リリース日(予定)(西暦年月日)：

対応OS：

(3) PF準拠確認チェック項目(準拠ルール)

製品を申請する対象に「○」⇒

確認欄への記入：◎：対応、○：制約のあるもの(制約がある場合は備考欄に記載する)

番号	準拠ルール (番号( CS-RXXXX)は、サービス基盤標準書に記載のある関連準拠ルールの番号)	必須/ 選択	サイト内/ 外/共通	V1.0 対応	PF対応のSOAPミ ドルウェア製品申請		サイト内のPF通信 製品申請		サイト内・外対応の PF通信製品申請	
					製品・シ ステム 確認欄	APPLIC 確認欄	製品・シ ステム 確認欄	APPLIC 確認欄	製品・シ ステム 確認欄	APPLIC 確認欄
1 【ミドルウェアの要件】プラットフォーム通信機能(PF通信機能)										
1-1	HTTP通信(IPv4, HTTP1.1)を行えること (CS-R020001, CS-R020002)	必須	共通	V1.0						◎
1-2	SOAP通信(SOAP1.1, document/literal, WS-セキヤクプロファイル1.0)を行えること (CS-R020003, CS-R020004)	必須	共通	V1.0						◎
1-3	サイト内における通信セキュリティを実現できること									
1-3-1	SSL3.0(TLS1.0)のサーバ認証が利用可能であること (CS-R050001)	選択	サイト内	V1.0						
1-3-2	SSL3.0(TLS1.0)のクライアント認証が利用可能であること (CS-R050001)	選択	サイト内	V1.0						
1-3-3	HTTPベーシック認証が利用可能であること (CS-R050001)	選択	サイト内	V1.0						◎
1-3-4	SSL3.0(TLS1.0)による通信路暗号が利用可能であること (CS-R050002)	選択	サイト内	V1.0						◎
1-4	サイト間における通信セキュリティを実現できること	必須	サイト間							◎
1-4-1	SSL3.0(TLS1.0)のサーバ認証が利用可能であること (CS-R050001)	必須	サイト間							◎
1-4-2	SSL3.0(TLS1.0)のクライアント認証が利用可能であること (CS-R050001)	必須	サイト間							◎
1-4-3	SSL3.0(TLS1.0)による通信路暗号が利用可能であること (CS-R050002)	必須	サイト間							◎
1-5	添付ファイルのサポートができること									
1-5-1	SOAP Messages with Attachmentsが利用可能であること (CS-R020007)	選択	共通							◎
1-6	異常系処理に対応できること									
1-6-1	メッセージ送信側のSOAP処理系は、TCP/IP/HTTPレベルで検知した障害を、MEP実行系を持つ上位アプリケーションに通知できること (CS-R060005)	必須	共通							◎
2 【サービス基盤の要件】プラットフォーム通信機能(PF通信機能)										
2-1	標準仕様書で定義するXMLインスタンスの形式に対応できること (CS-R032001)	必須	共通	V1.0						◎
2-2	標準仕様書で定義するサービスインタフェース定義に対応できること	必須	共通	V1.0						◎
2-2-1	PF準拠のWSDL定義に対応するサービスインタフェースを提供できること (CS-R032003)	必須	共通	V1.0						◎
2-2-2	PF準拠のWSDL定義に対応し公開されるサービスを利用できること (CS-R032003)	必須	共通	V1.0						◎
2-3	標準仕様書で定義する電子封筒形式のメッセージを交換できること (CS-R020005)	必須	共通							◎
2-4	標準仕様書で定義する添付ファイルの形式に対応できること									
2-4-1	メッセージ本体格納型および添付型で添付ファイルを交換できること (CS-R020007)	選択	サイト内							
2-4-2	メッセージ本体格納型および添付型で添付ファイルを交換できること (CS-R020007)	選択	サイト間							◎
2-5	標準仕様書で定義するデータ交換システムパターンに対応できること									
2-5-1	サイト内における通信では5つのデータ交換システムパターンのうち一つに対応できること (CS-R020009)	必須	サイト内							◎
2-5-2	サイト間における通信では、Type1、Type2、Type4の3つのデータ交換システムパターンに対応できること (CS-R020011)	必須	サイト間							◎
2-6	標準仕様書で定義するメッセージ交換パターンと異常系処理に対応できること	必須	共通							◎
2-6-1	メッセージ交換パターンとして、「リクエスト型受領Ackあり」「リクエスト-レスポンス型同期型レスポンス」「リクエスト-レスポンス型受領Ack+非同期型レスポンス」の3つのパターンを利用できること (CS-R060001~CS-R060004)	必須	共通							◎
2-6-2	メッセージ交換パターン処理系にて、障害を検知した場合、標準仕様書で定義する異常系処理を行えること (CS-R060006, CS-R060007, CS-R060009)	必須	共通							◎

備考欄(前提事項や制限事項)